

自分で育つ力

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



人の「成長」は仕事における技術的なハードな面と人間性というソフトな面の2つに分けられる。職場における教育方針は時代とともに変化して

いく。私は昭和43年生まれ、平成2年卒であるが、先輩からは罵声を浴びながら教わった。時には物を投げつけられた時もしばしばである。そんな日には、アフターファイブに同期と居酒屋で愚痴を言い合いたい気分になるが、たいていは、その先輩から「飲みに行くぞ!」と言われる。もちろん断ることもできずに居酒屋へお伴をするのである。そして終電を逃し、先輩の自宅に泊めていただくこともしばしばであった。後から思えば、それが愛情だったということに気付く。その先輩もよく自分の昔話をしてくれた。先輩が新人の時に受けた教育方針は「仕事はワザだ。見て盗め、誰も教えてくれない」だったそうである。いわゆるジェネレーションギャップはどの時代にも存在するということだ。それから考えると「私たちは教えてもらえるだけ良しとするか」と思えたものである。今では時代が変わり、組織や業種によってその差はあるものの、私が受けてきた平成初期の教育方法は、今では「パワーハラスメント」と言われる時代になった。もちろん私はその時の教育方針を肯定も否定もしない。それは過去の時代を今の

慣習で判断したり、今の時代を過去の慣習で判断しても何も生まれないからである。個人的な感想を述べさせていただくのであれば、精神的には随分と鍛えられ、ちょっとやそつではへこたれない精神力が身に着いた。今の時代はこれを鈍感力という。

そしてこれからの時代は、それぞれの個人が「自ら成長する」という時代になった。最低限のマニュアルは整備されているものそれだけで仕事は完結しない。つまり「成長」に関しては自己責任という厳しい時代になった。

では、どのように「自ら成長する」のか。新しい情報や他の考えを得て、自分を客観的に評価し自分自身に落とし込む作業が必要になる。幸いにも私たちの分野は数多くの講習会や講演会が開催されている。他施設の仲間といろいろなディスカッションをするのも一つである。既存の研究会や技師会、学会に参加することが最も現実的ではあるが、出来上がった組織に入り込むことに敷居が高いと感じれば、同級生同士のグループを作り、定期的な近況報告やディスカッションをすることも良い。

これからは自分で考え、自ら行動し、情報を得て、自分自身を成長させる「自分で育つ力」が必要とされる時代になったと言える。

そして時代は変わり、今の教育方法が30年後にどのように変わるのかが楽しみである。